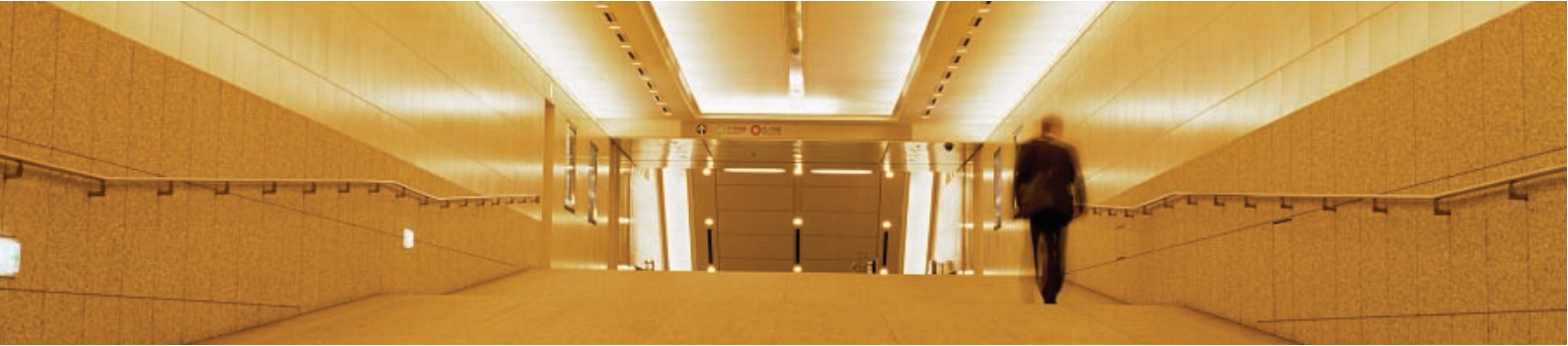




**異機種混合 IT 環境で汎用の接続・変換を実現する
プラットフォーム非依存型 ESB を提供**



アプリケーション統合の進化

市場環境およびビジネス要件はめまぐるしく変化しており、合併・買収、規制要件の拡大、グローバリゼーションといった予期せぬ市場の変動によって企業の収益成長が妨げられる事態が起きる可能性があります。また、アプリケーションやソリューションの保守コストが長年にわたって蓄積して、企業の予算を圧迫しています。

ビジネスのスピードに遅れないためには、プログラミング言語、システム・プラットフォーム、プログラミング・モデル、プロトコル、データ形式を問わず、すべてのアプリケーション間で相互通信を実現する必要があります。

多くの企業が、ビジネス・プロセスの背後にあるアプリケーションをリンクされた反復可能なビジネス・タスクやサービスとして統合するために、サービス指向アーキテクチャー (SOA) を導入し始めています。SOA へのエントリー・ポイントが、エンタープライズ・サービス・バス (ESB) です。

ESB を利用することにより、包括的で柔軟性に富み、一貫性のあるアプローチによって、アプリケーションの複雑さを軽減しながら、アプリケーションを統合できます。ビジネス・ニーズは本質的に複雑かつ多彩です。そのため ESB は、アプリケーションやサービスを統合するためのメッセージ指向型、イベント駆動型、サービス指向型のアプローチを取り込みながら進化しています。

今日では多様な ESB が登場しており、それぞれが互いに異なる機能を備えています。多くの企業が独自の SOA インフラストラクチャーを実装するのに伴い、複数の ESB の構成やトポロジーが出現してくると思われます。企業の合併・買収も複数の ESB 要件に一役買っています。

そのため、管理する個々の SOA ドメインや ESB に対し、協調的で、異種環境に対応する、連合化されたアプローチを策定することが重要です。良好なデプロイ環境を実現するには、リソースやセキュリティ・ニーズの管理、複数の ESB の全体的な管理といったポリシー管理が不可欠です。

ESB の構築は、アプリケーション統合の問題を解決するための最もスピーディーで経済的な方法の 1 つです。

WebSphere Message Broker: プラットフォーム非依存型 ESB

IBM WebSphere® Message Broker はユニバーサル ESB、すなわち拡張可能な機能と柔軟性を幅広く備えた制限のない ESB です。IBM WebSphere MQ を基盤として構築され、保証済みのデリバリー機能、セキュリティ、拡張性を素早く実現します。Message Broker は、メッセージ転送という基本的な機能を提供するだけでなく、メッセージ・データに幅広い変換処理を施して、その場で規則やポリシーを適用する統合ハブの役割も果たします。しかも Message Broker はこれらすべてを堅固なオペレーティング環境で実行して、高い拡張性とスループット、更新のホット・デプロイを実現します。さらに Message Broker の管理は、大規模な配置環境でも容易です。

Message Broker 6.1 は企業内外のすべてのものを、SOA ベース、非 SOA ベースの区別なく接続します。Message Broker 6.1 によりお客様は保有する個々のシステムだけでなく、外部パートナーや顧客のシステムも効率的に接続および統合できます。また標準装備の Java™ 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) Connector architecture (JCA) アダプター・ノードとファイル処理機能を活用することにより、主な統合シナリオで管理を簡素化し、パフォーマンスを向上させることができます。



汎用の接続性

WebSphere Message Broker を使用すると、アプリケーションの接続を単純化し、柔軟で動的なインフラストラクチャーを構築できます。WebSphere Message Broker は異機種混合の IT 環境間で汎用的な接続と変換を可能にする機能を備えた、プラットフォーム非依存型 ESB です。

WebSphere Message Broker はその堅固なデザイン、拡張可能なアーキテクチャー、高いパフォーマンスと使いやすさによって、SOA の全社的な実装を段階的に実行できるようにしてお客様のリスクの軽減を図ります。このような柔軟に一体化された多様な機能により、お客様は任意のスタート地点から統合ニーズを満たす、すなわち 2 つのアプリケーション間の単純なソリューションにも、複数のアプリケーションと複数のプラットフォームが絡む設計にも対応できます。お客様のビジネスが成長し、統合に関する問題が増えるにつれ、WebSphere Message Broker は絶えず変化するビジネス・ニーズに次のように対応します。

- 複雑さを増さずにインフラストラクチャーを拡大する
- アプリケーションやデータ構造に対する既存の投資や進行中の投資を保護する
- 接続機能をシームレスに拡張する
- Web サービスをセキュリティー問題も含めてサポートする

WebSphere Message Broker はお客様が現在抱えている統合やメディエーションの幅広いニーズに対処し、将来の投資を保護する、コスト効率のよいソリューションです。

任意の場所から任意の場所へのメッセージのルーティングと変換

WebSphere Message Broker には、ビジネス・データをアプリケーション間で変換・ルーティングするのに必要な主要な機能が装備されています。WebSphere Message Broker はメッセージやプロトコルのスイッチの役目を果たします。これによってお客様は、複数のプラットフォーム上に分散するアプリケーションや業務データを接続し、すべてのビジネス情報を変換およびインテリジェント・ルーティング機能によって業務データを必要な場所に、必要な形式で提供できます。

IBM サービス対応ソフトウェアを活用して迅速に統合を達成した GROHE 社

水回り製品を専門とする GROHE は、古いアプリケーションと SAP モジュールを統合して、新しい SAP エンタープライズ・リソース・プランニング (ERP) システムを構築するという課題を抱えていました。このプロジェクトを迅速に完了するために、同社は開発者向けインターフェースの使いやすさの点から、IBM WebSphere Business Integration ソフトウェアを採用しました。また、IBM の関連会社である SERCon GmbH がアプリケーション開発の支援を行いました。

SAP 統合用のこの ESB ソリューションには、WebSphere Message Broker ソフトウェアが含まれていました。このソリューションによって、次が実現しました。

- 統合に要する平均時間が最大 84 パーセント (6 か月から 2 ~ 4 週間) 短縮できました。
- 手作業のコーディングによる Point-to-Point の統合方法と比較して、既存のアプリケーションを新しい SAP モジュールと統合するのに必要な時間とコストを削減できました。
- 信頼性と可用性の高いデータ転送を実現できました。
- レガシー・システムをサービス対応にして、資産をオンデマンドで再利用できるようにしました。

GROHE AG のソフトウェア・マネージャーである Armin von Dolenga 氏は、「Point-to-Point の古い統合方法を使うと、1 つのインターフェースをプログラムするのに 6 か月かかるところでしたが、IBM WebSphere の統合ソリューションのおかげで、14 件のすべてのプロジェクトを 2 か月で完了できました。これは我々のチーム、ひいては当社にとって驚くべき成功といえます」と語っています。



システムの接続によって新サービスを提供する

HypoVereinsbank

HypoVereinsbank の法人および市場部門では、保有する IT インフラストラクチャーを統合して、顧客の要求に対応し、市場機会に対応する能力を高める必要に迫られていました。

HVB Information Services GmbH は、IBM Global Business Services、IBM Software Group、そして IBM ビジネス・パートナーの Steria Mummert Consulting の支援を受けて、IBM Tivoli® および IBM WebSphere ソフトウェアを基盤とした ESB インフラストラクチャーを配置しました。

この統合ソリューションは取引処理を効率よくシンプル化する接続環境として機能します。HVB は既存および新規のアプリケーションを社内外の情報システムとリンクするための統合シナリオの設計と実装にかかる時間を 35 パーセント削減することに成功しました。

HypoVereinsbank AG の営業部長である Michael Dietze 氏は、「ESB は、HVB が投資銀行業務を機敏に行うのに必要な柔軟なインフラストラクチャーを提供してくれます。我々のビジネスでは変化が非常に速いのですが、当社は ESB を使用して新しい市場や新しい取引システムを既存のシステム環境に接続することにより、新しいビジネス・チャンスに即応できるようになりました。ESB によって、迅速な新しいビジネス・プロセスの適応および新製品や新サービスの投入が可能になりました」と語っています。

WebSphere Message Broker はメッセージを任意の場所から任意の場所にルーティングおよび変換します。MQ、JMS 1.1、HTTP(S)、Web サービス、ファイル、ユーザー定義といった幅広いプロトコルをサポートするほか、バイナリー、XML、業界標準、ユーザー定義のインタラクションや処理（ルーティング、フィルター、変換、加工、監視、配布、分解、関連付けなど）といった多彩なデータ形式もサポートします。バイナリー形式には C や COBOL が含まれます。業界標準形式には、Society for Worldwide Interbank Financial Telecommunication (SWIFT)、Electronic Data Interchange (EDI)、Health Insurance Portability and Accountability Act (HIPAA) などがあります。

セキュリティ

セキュリティや規制順守についての懸念が広がってきていますが、使用中の ESB がこういった問題に対応できるようにすることが重要です。Message Broker にはクロスドメインのセキュリティ処理をサポートする強力な実行時セキュリティ・モデルがあります。ID 認証および許可機能がネイティブで装備されています。

プログラミングのシンプル化

WebSphere Message Broker はあらゆる IT 環境に適応できるよう最適化されているのに加えて、一連のアプリケーションとミドルウェア・テクノロジーをサポートしています。また、業界をリードする WebSphere MQ のメッセージング・インフラストラクチャーを利用して、幅広い転送プロトコルをサポートしています。多彩なデータ形式に対応し、数多くのやり方でメディアーションをカスタマイズします。構築済みの堅固なメディアーション関数群を含む、接続とメディアーションを実現するシンプルなプログラミング・モデルを使用しています。グラフィカル・マッピング、Java、Extended Structured Query Language (ESQL)、XSL、高性能 XML 構文解析、IBM WebSphere Transformation Extender などによる幅広い変換オプションも提供します。開発済みのソリューション向けに多様な管理およびシステム・マネージメント機能を提供して、従来のトランザクション処理環境と同じパフォーマンスを実現します。



WWebSphere Message Broker では、次のコンポーネントによってアプリケーション接続を記述するメッセージ・フローをシンプルにできます。

- 必要な統合ロジックをカプセル化するメッセージ・ノード
- 形式に依存せずにデータを記述するメッセージ・ツリー
- グラフィカル・マッピング、Java、ESQL、XSL、
WebSphere Transformation Extender などの変換オプション

運用管理とパフォーマンス

WebSphere Message Broker は、開発されたソリューション向けに多様な管理およびシステム・マネージメント機能を提供します。インストールと簡単なサンプルの実行は 1 時間以内で完了します。パッケージングがシンプルであるため、適切なインストール資産を簡単に識別できます。WebSphere Message Broker は、IBM AIX®、HP-UX (PA-RISC、Itanium™)、Linux® on Intel®、Linux on IBM POWER™、Linux on IBM System z™、Sun Solaris (x86-64 および SPARC)、Microsoft® Windows®、IBM z/OS® など、幅広いオペレーティング・システムとハードウェア・プラットフォームによってサポートされています。すべての Linux および UNIX® プラットフォームは 64 ビット機能を装備しています。

詳細情報

IBM WebSphere Message Broker の詳細については、IBM 担当者にお問い合わせいただくか、次の Web サイトをご覧ください。

ibm.com/software/integration/wbimessagebroker/

主要なビジネス機能の再利用で 1,500 万ドルを節約した St.George Bank

オーストラリア第 5 位のリテール・バンクである

St.George Bank は、1990 年代後半に 4 つの銀行の大規模な統合を行って現在の St.George グループを創設しました。2000 年を乗り越えた後、この企業統合によって生じた密結合システムとサイロ化した情報プラットフォームを統合して、柔軟性、厳しいコスト管理、新しいアプリケーションの市場投入の加速を実現する必要があったことが明らかになりました。

このアプローチの鍵となるのは、銀行のチャンネルのフロントエンド・システムと、バックエンドの核となるバンキング・システムを結ぶメッセージング・ミドルウェア層です。このメッセージング層を開発するために、St.George Bank は IBM WebSphere MQ と IBM WebSphere Message Broker を採用しました。SOA によって、同行は運用の中断を削減できたのと同時に、新製品をより短い市場投入時間で展開できるようになりました。

St.George Bank のグループ・アーキテクチャーの責任者である Greg Booker 氏は、「一貫性のあるパーソナライズした顧客対応によって、最近の調査によると、当行のお客様満足度レベルは 75.3 パーセントという高いレベルに戻りました。このような高い業績が可能になったのは、主として多数のチャンネル間でのサービスの共有と、IBM のメッセージング・ミドルウェアによるものと思われます」と語っています。



© Copyright IBM Corporation 2007

日本 IBM 株式会社
ソフトウェア事業
〒106-8711
東京都港区六本木 3 丁目 2 番 12 号

当資料に記載の肩書きや数値、固有名詞等は英語版掲載時のものであり、変更されている可能性があります。

AIX、IBM、IBM ロゴ、POWER、System z、Tivoli、WebSphere および z/OS は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Intel および Itanium は Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本書に記載の製品またはサービスが日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品またはサービスについては、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。